

パートナーシップおかや

No. 10

岡谷市男女共同参画推進市民の会

災害体験から学んだ“支え合いの地域づくり”

岡谷市民生児童委員協議会副会長(元花岡区長) 小口 濱 明

平成 18 年 7 月の豪雨災害を風化させずに後世に伝承する石碑を建立し、災害からの復興が一段落しました。当地(岡谷市花岡区地籍)の災害からの復興は、陣頭指揮で地域をまとめ、住民が一体感をもって結束し、折れそうになる気持ちを奮い立たせて、前へ前へと頑張った結果、成し遂げ得たものでした。この裏には、国・県・市行政の多大な支援とボランティアで参加下さった方々のお力添えがあったからこそで、感謝の言葉しかありません。

復旧・復興のテンポが軌道に乗った頃、私は当時のボランティア参加の方々や県・市・社会福協議会等々の依頼を受けて、皆さんへのお礼も兼ねて「今後地域で行っていく防災減災」について講演してきました。こうした活動を振り返り、「防災・減災の地域づくり」について「男女共同参画」の視点で振り返ってみたいと思います。

平成 18 年 4 月、区政を担ったときの課題は「地域力」を上げることでした。そのため施策は隣組内の関係希薄が問題となっていましたので「隣組を再認識し、住民が何事にも参画意識をもち、絆を感じ合い、支えあう行動が出来る」ということでした。それには、

①地域サポートセンターを設置する。②女性の区政への参加を促す。③地域が子どもを育てていく。この三点を大方針としました。

その三月後に災害が発生しました。そこで④地域内で起きた災害を皆で助け合い、土砂を取り除くボランティア参加を呼びかけました。これには中学生や高齢者など、男女を問わず参加してくれました。さらに⑤自主防災組織を当て職ではなく、男性・女性の適性分野を考慮して、すぐに行動できる組織を作りました。また⑥今回の災害は「山の荒廃」も大いに関係していたことから、山のことに詳しい高齢者(経験を積んだ人)を任命し、これに伝承していただくことも期待し、若い人も加えて山地防災パトロールを行う「西山里山の会」を立ち上げました。このような取り組みを図った結果、災害前の課題も含めて解決が図られ、地域力も上がってきました。

災害は前触れなく、突然襲ってきます。自らの地域のことは、地域住民老若男女全ての一人ひとりが、地域コミュニティ活動・ボランティア活動に参加し、地域づくりに貢献するならば、地域における「男女共同参画社会」の姿につながっていくと思います。

「男女共同参画週間 パネル展示」開催 (6月23日~29日)

恒例の内閣府提唱の男女共同参画週間に合わせて、「パネル展示」をカルチャーセンター催事場で行いました。私たち「市民の会」が取り組んでいる活動の様子を記録した写真と説明(パネル化)を中心に小中学生から寄せられたポスター(23年度ポスターコンクール入賞作品)を展示し、意識啓発・高揚を図りました。

会場には、小学5年生に市から配布されている男女共同参画啓発小冊子「わたしらしく あなたらしく」と、昨年中学生より公募した「男女共同参画」「男女平等」のテーマでの感想文を文集にした「小冊子」を用意し、お配りしました。また、子育て中の若いパパ・ママさんたちには、家庭での子育てについて、その役割分担、それぞれの貢献度を尋ねるアンケートにも答えてもらいました。

今年度は、展示会場に会員が当番で常駐、展示物や配布物についての質問にお応えするとともに「市民の会」の活動の趣旨などについて説明し、「男女が共に力を合わせて、これからの社会を築き上げていくことの必要性」を訴え、また、ご意見もお聞かせいただくなど、交流を図ることも出来ました。



展示物に見入る来場の皆さん

特集

〈改めて確認しましょう！「市民の会」活動の原点を〉

朗読劇(紙芝居)「働くこと 生きること」完成！

私たち「市民の会」は、年度当初より、「ワーク・ライフ・バランス」をテーマに、メッセージを含めた「朗読劇」の制作を進めてきました。上演に向けての練習を続ける中で、訴える内容・方法等について検討・修正を重ねた結果、6月末までに完成させることが出来ました。

去る7月7日には、長野県男女共同参画センター(あいとぴあ)が主催した「男女共同参画フォーラム」の会場で、長野県内各地から参加された多くの皆さまの前で上演致しました。(右写真:「あいとぴあ」での上演の様様)

「働くこと 生きること」と題した今年の朗読劇は、上演時間が18分程度の作品でしたが、上演の結果は、概ね好評を頂くことが出来、出演者・演出者一同、安堵とともに、ある満足を感じ取ることが出来ました。



私たちが、3年前から取り組んできた朗読劇の制作・上演。改めて、本年度のこの活動の経過と結果を報告するとともに、今後に向けての展望を考えてみたいと思います。

朗読劇(紙芝居)づくりにかけた私たちの「思い」

「人は誰でも、男も女も、お互いを認め合い」「一人ひとりの個性と能力が発揮できる」。このことが家庭内のみならず職場の中でも実現でき、誰もがいきいきと生活できる社会を目指したい。この「市民の会」が掲げる活動目標が、朗読劇づくりにかける私たちの「思い」でもあります。

全員で脚本(内容・ストーリー)作り

どんな訴え方にしたらよいのか知恵を絞る

- 地域・社会を活性化させたり、災害からの復興を進めるためには「女性の参加・活躍が不可欠である」との認識の下、法制度の整備は進められています。
- しかし、両性の意識や行動は一朝一夕に変化するものではなく、労働環境の厳しさもあり改善のテンポは捗々しいとはいえません。
- こうした現状に鑑み、高校卒業後15年が経ち、それぞれの人生を歩んできた5人が、恩師を招いてクラス会を開き、意見交換し合う形で、次の「三点」を訴えていく内容としました。
 - ①社会は、男女を問わず「意欲と発展能力」の高い人材を求めている。私たちは、常に自らを磨き、自己啓発していく必要がある。
 - ②夫(男性)は、潜在的に、妻(女性)には外での仕事はして欲しくないと思う伝統的な価値観をもつ傾向がある。この価値観を両性の努力で変えていく必要がある。
 - ③女性の側にも「仕事は基本的には男性に任せておけばよい」との意識が残っている。この意識も「両性の努力」で変えていく必要がある。

出演者・演出者の感想・・台詞の中に込めた私たちの主張は、聞いて頂けたと思っています

- 本年は、出演者7名、演出者5名(監督・朗読指導1名、絵コンテ作成1名、音響効果3名)が中心になって取り組みました。脚本作りから上演に至るまで、全員がそれぞれの思いをぶつけ合いながら「全員全力投球」で制作・発表できたという自負があります。
- 上演に向けての練習の最中でも表現方法を巡って意見が交わされ、改善を重ねました。
- 観て下さった皆さまから「訴えようとするポイントが絞られており、共感できる内容であった」「出演者の滑舌がよく、聞き取り易かった」「絵コンテを入れた紙芝居形式はよかった」「もっと音響効果を採用したら、なおいいものになる」など、概ね好意的なご意見と励ましを頂くことが出来ました。

今後とも、私たちの「大切な事業」に位置づけていきましょう

この朗読劇の制作・上演の活動は、私たち「市民の会」の『大切な事業』として位置づけることが出来ると思います。今後とも、会が掲げる目標に沿ったテーマでの企画・制作に心掛け、様々な機会に、積極的に上演・発表して参りましょう。(事業部)

「男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」(シンポジウム) 開催

去る6月22日、メルパルクホール東京(東京都港区)において、「平成24年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」が2年ぶりに開催され、全国より620人(岡谷市から17人)が出席しました。



(第二部)パネリストとコーディネーター

この会議は、1991(平成3)年より開かれています。1999(平成11)年6月、「男女共同参画社会基本法」が施行されたことちなみ「全国会議」と銘打って、毎年6月に開催されています。

(注記)昨年度は、東日本大震災=3月11日発生=の影響で中止されていました。

「全国会議」に参加してきました(伊藤綾子)

「あなたがいる わたしがいる 未来がある」をキャッチフレーズに開催された今年度の全国会議は、第一部で中川正春内閣府特命担当大臣(防災、男女共同参画担当)の挨拶があった後、「男女共同参画は日本の希望」と題して中央大学教授山田昌弘氏の基調講演がありました。「政治・経済への分野に女性の進出が遅れており、社会構造の転換が必要である」ことをデータを示しながら話されました。

続く第二部では「女性の活躍による震災復興と経済活性化について」をテーマにパネルディスカッションが行われ、3人のパネラーより、それぞれの実体験に基づく見解やテーマに沿って実践している考え方・事項が報告されました。

昨年の東日本大震災の被災地岩手県釜石市で女将として旅館を経営している岩崎昭子さんは「復興には自分たちが立ち上がり、街づくりは、男女共同参画で」と熱っぽく語ってくれました。また、島根県松江市で塗装店を営んでいる常務取締役古志野純子さんは「職人気質の強い従業員が多い会社であるが、従業員のワーク・ライフ・バランスを労務政策の中心に諸施策を先行投資として講じている。これにより従業員が定着し、投資した以上のものが会社に返ってきている」と具体的な成功事例を発表してくれました。また、百貨店・高島屋人事部の中川荘一郎さんは、「女性の役員は複数必要。大いにチャレンジして欲しい」と、女性の多い職場で、ファッションやトレンドを発信する販売会社の人事労務担当者らしい見解を述べていました。

以上3人のパネリストの意見・見解に、コーディネーター藤沢久美さん(シンクタンク・ソフィアバンク副代表)は、「職場環境を変えるのはトップ次第。時代の流れに敏感な人をトップに据えることが求められる。」などと纏めていました。



岡谷市から参加された皆さん

岩崎昭子さんのお話に感動しました(秋山睦子)

被災地の生々しい生き方に感動しました。「普通の人々の生活」ができないことのもどかしさ・「日本全国から温かい力、お金、知恵が寄せられています。まだまだ復興は緒のところ。今後ともお願いしたい」と訴えられていましたが、被災地の皆さんの叫び声にも聞こえました。

私たちは、「何かが起きる」ことを前提に物事を考え、起きてしまったら柔軟に考え方・処方を変えていくということを「日常生活の中で常に自覚する心構えが大切だなあ」と思いました。

長岡塗装店常務・古志野純子さん(ワーク・ライフ・バランス賞受賞)の報告に感激(北原正男)

「以前より、先行投資として、育児・介護休業制度などを整備した結果、若手社員が定着し、中途退職者もゼロ。」これを聞いて大変感激しました。会社を維持するために、採り入れた制度であったと思われませんが、そうしなかったら人は集まらないし、事業も続けられなかったと思います。このような成功事例は、とくに多くの中小企業で採り入れていくべきだと思いました。

なお、この全国会議に参加して、一層思いを強くしたことですが、「女性がもう少し自分を発揮し、主張することが大切である」ことを、旅館経営の女将の話とあわせて強く感じました。

「岡谷市男女共同参画推進団体等連絡会」が設立されました
今後とも、多くの団体や個人の皆さまのご参加をお願いします

「男女共同参画社会基本法」が施行された1999(平成11)年より取り組まれている「男女共同参画社会づくり」は、政府が進めている「税と社会保障の一体改革」の中でも改めて「具体的で重要な課題」として提起され、より強力に推進していくことが求められています。防災・環境・経済などあらゆる分野で、男女共に協働していかなければ、豊かな暮らしの実現が困難な世の中になってきています。そこで「岡谷市男女共同参画推進市民の会」では、一昨年より準備を進め「男女共同参画推進団体等連絡会」の設立を目指して取り組みを進めてきました。

その結果、本年3月に「岡谷市区長会」、「岡谷市民生児童委員協議会」、「岡谷市子ども会育成連絡協議会」、「岡谷市消費者の会」(順不同)とともに連絡会を設立しました。これからは、団体相互間の連絡・連携を密にして具体的な取り組みが継続されることにより、意識の高揚が図られ「安全・安心で豊かな社会・地域づくり」につなげていくことが出来ると期待されます。

今後とも様々な団体や個人がご参加されますようお願いいたします。(連絡会代表 小池 喜代)

**「男女共同参画地域フォーラム in おみ」
が開かれました**

9月1日、県内各地から約380人(岡谷から12人)が参加して、東筑摩郡麻績村の地域交流センターで「地域フォーラム」が開催されました。

**主催：男女共同参画地域フォーラム実行委員会
長野県男女共同参画推進県民会議
長野県 麻績村**

本フォーラムは、男女共同参画社会の実現に向けて盛り上がりのある「取り組みの報告と研究」の場となりました。

開会に先立ち、地元で伝わる郷土芸能「聖太鼓」が勇壮・華麗に披露されました。若い男女の皆さんが協力し、心と技を合わせて「ひとつのもの」を作り上げている様子は、本フォーラムの趣旨に相応しいものであり、フォーラムの成功を暗示してくれるものでした。

県から加藤副知事、村から高野村長が出席され、それぞれ行政として取り組もうとしている事項や、物づくりで女性が活躍している具体的な事例を紹介しつつ本フォーラムに期待する旨の挨拶がありました。

第一部の事例発表では、麻績村の「女性消防団」と「麻績図書館」が活発に取り組んでいるユニークな活動の様子がOHPを使い、一部実演も交えて報告されました。地域の安全・安心を守り、子どもたちの健やかな心の発達を後押しする上で、「女性の力が如何に大きなものであるか」を強く印象づける事例発表でした。

第二部の記念講演では、女流落語家・古今亭菊千代師匠の体験に基づく楽しいお話に泣き笑いしましたが、その後、手話落語で「初天神」が演じられ、有名なネタとはいえ大笑いすることが出来ました。(三澤 勲)

★お悔やみ申し上げます

会員の今井朗子さんが、5月25日お亡くなりになりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

**小・中学生ポスターコンクール
審査会が行われました**

岡谷市と市教育委員会、岡谷市男女共同参画推進市民の会は、9月5日、「男女共同参画社会づくり」ポスターコンクールの審査会を市庁舎大会議で開きました。今年は小学生の部に37点、中学生の部に33点の応募がありました。

審査は岩下教育長、豊永審議会会長、小池校長(川岸小学校)、依田校長(南部中学校)、他3人で行われ、小学生、中学生の部毎に最優秀賞と入賞作品合わせて8点づつが選ばれました。

なお、表彰は10月1日に、市庁舎で行われることになっています。

【お知らせ】

当面、次のような行事や企画が計画されています。奮って参加しましょう。

☆男女共同参画フォーラム in 長野

＝講演とパネルディスカッション＝
日時) 10月19日(金) 12:30～
会場) ホテルメトロポリタン長野

☆日本女性会議2012仙台

日時) 10月26～28日(金～日)
会場) 仙台国際センター(仙台市)

☆あいとびあ祭り2012

日時) 11月10日(土) 10:00～
会場) 長野県男女共同参画センター

☆男女共同参画おかや市民のつどい

日時) 12月1日(土) 13:00～
会場) カノラホール(小ホール)